

G 小学校より短指症の児童が使用している改造リコーダーの調整について、 依頼がありました。

まず、指の長さに応じてどの位置に音孔を向けるか、対象児童の手の動きを 見ながら、できるだけ無理のない位置に配置するように提案しました。また、 手の向きを工夫することで使うことができる指が増え、その指を使った運指を 提案すると、今まで諦めていた低いドの音を出すことができるようになりまし た。対象児童は、とても喜んでいました。

